

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173200193		
法人名	有限会社 ラック・ライフ		
事業所名	グループホーム喜楽(あい)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302-1		
自己評価作成日	平成28年10月8日	評価結果市町村受理日	平成29年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JievosyoCd=2173200193-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成28年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で、一日一日が利用者さん各々のペースに合わせた生活になるよう働きかけている。また、笑顔の多い暮らしができるように支援している。 ・生活の場である事を意識して、利用者さんが得意とする事を行ってもらい、活力のある日々を送れるように意識している。 ・利用者さんだけではなく、そのご家族の思いにも寄り添えるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは四方が田畑に囲まれた日当たりの良い環境に立地し、建物は木材をふんだんに使った和の設えや民家の趣を感じさせる造りである。室内は利用者の動線に合わせて家具を配置し、使いやすい備品を設置する等、利用者が安心して生活できるよう配慮している。管理者は職員と共に利用者ケアを実践し、OJTによる指導助言を行っている。職員と利用者の関係は、ケアするケアされるの関係ではなく、生活を共にする者としての関係であると考え、利用者の主体性を尊重し、待ちの姿勢でじっくり向き合い、その潜在的な能力を引き出していけるよう支援している。また支援が業務的にならないよう常にふり返りをし、ケアの質の向上を目指している。そして市町村や地域の高齢者施設とも連携をする等、地域のネットワークの構築に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき生活をおくれている。日々の生活を振り返り、実践につなげけるよう共有理解に努めている。	地域の中で、自由と安全と楽しみを持ち暮らすという理念を玄関に掲げ、ミーティングや職員が集まる機会を捉えて確認し合うほか、常に散歩など日常的な業務の中でそのケアが理念に沿っているかを確かめながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々とのつながり、行事への参加の呼びかけ、地域行事への参加等の機会を持ち、閉鎖的にならない様日常的に交流している。	新聞折り込み等を活用して、地域の方々を招き、行事を開催したり、屋内で幼稚園・保育園児と交流したり、地域・家族を交えた芋煮会など実施する中で、地域のつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事参加等地域発信の場を活かし、話し合い、共に取組んでいる。今後、見学や研修等の地域貢献の場をより広げたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ご利用者も参加して会議を行っている。報告と共にご利用者の声を届け、委員の方と意見交流したり、指導を受けたり、気付きにつなげてサービス向上に努力している。	会議は2ユニットでそれぞれ交互の開催とし、利用者全員が車座になり、その周りに家族や推進会議委員が困った体制で開催しているので、利用者も話しやすく様々な意見を述べている。会議の目的について常に考えながら実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や行事に参加して頂き、現場に実際足を運んでもらう機会も大切にしている。実情の理解を得て協力関係を築くよう取組んでいる。	運営推進会議の際に、ホームの利用者の状況を把握した上で意見をいただく等、協力関係ができています。また市内のグループホームの交流会やホームの日常的な相談を通じて連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の安全確保以外は玄関の施錠もなく、出入りが自由になっており、ケア全般に於いて、常に拘束になっていないかを職員間で確認している。	施錠は夜間と夕方の職員の手薄な時間帯に限定している。また、パット、紙パンツ、精神安定剤等、ケアする側の業務の都合で使用し、結果として拘束となっていないかを問いながら、おむつを外していくケア、薬を減らしていく努力、待ちの姿勢での関わり方を検討する等、利用者の自由を束縛しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体確認、言葉使い等確認の機会を持ち、職員の意識づけなど話し合いを大事にして取組んでいる。また、夜間中はユニット間で声を掛け合ったりして協力体制をとり、お互いに注意を払って虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、一部の職員の理解にとどまっていると思われるが、随時ご家族と相談しあい、関係者と話し合っ て支援へ繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、利用者・家族の立場に立ち、十分な説明を行い、理解・納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常にご利用者、ご家族共にコミュニケーションを図れるように心掛けている。運営推進会議にも参加され、意見を伺っている。相談員の方とも意見交換されている。	来所の際など機会あるごとに話しかけ、意見をいただいている。なるべく声かけに努め、話やすい雰囲気作りをしてコミュニケーションを図っている。伺った意見については、できる限り運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでの意見交換や提案の場を設けている。随時、個々とも話し合いの場を設けている。	管理者は、ミーティングや日常的なケアの場面で職員への声かけに心がけ、話やすい関係づくりに努めている。会議においても様々な意見が出され、運営に反映させている。	職員提案箱の設置や目標管理において、期中面談を実施する等、意見徴収の機会の拡充に向けた取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個人個人の努力や成果を把握するよう努め、各自が向上心を持って働けるような環境整備に努めている。労働時間についても本人の意向を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、力量を把握して、段階的に内部・外部研修の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間での相互研修、及び「グループホーム協議会」等での交流、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを把握してしっかりと受け止め、安心を確保し、信頼関係を少しずつでも築けていけるような努力を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時前の段階から、ご家族様との話し合いを何度も重ねて、一番の困りごと、不安な事をご本人とは別に把握し、関係づくりに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、早急に必要な支援を見極め、徐々に馴染みの関係に心がけ、ご本人・ご家族が安心してサービスを受けられる様、他の機関との連携に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教わる事のほうが多い。時には感情・本音のぶつかりあいがあるが、良い関係を築いていると思う。馴れ合いに気をつけたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の通院や散髪等可能な方はご家族に依頼している。又、行事活動にもご家族に参加いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族との関係だけが維持できている。 ご家族と疎遠になりつつある利用者は、家族との関係にもう少し働きかけが出来ると良いと思う。	併設のデイサービスの利用者との交流を促進したり、家族の都合に合わせて誕生会を企画する等関係保持に努めている。また、利用者の面会回数に着目し、疎遠にならないよう関係継続のためにできることはないかを問いながら支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起きそうな時を除き、過度に利用者同士の関係に立ち入らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	再び遊びに来易い雰囲気作りを心掛けており、相談には随時のっている。 他へ移られた時には訪問し、支援状況等情報交換をして、一日も早く馴染んでいただける様支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の様子に配慮しつつ声掛けを行い、表情や言葉から思いを感じる様努めている。時には居室等で一対一で会話する時間を設け、真意を確認する様努めている。意思把握が困難な場合には、その御家族から情報を得るようにしている。	利用者の思いを把握するため、待つという姿勢を大切にし、利用者として1対1で対話する機会も設けている。その際、職員は利用者の言動に対して傾聴に徹しているかどうかを自問しながらコミュニケーションを図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人よりじっくり話を聞き取り、その御家族やその他関わりのあった方達からも、話や紙面での情報を提供して頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して本人が思う様に生活する中で、行動の促しや、一緒に行う事により本人の出来る事、出来そうな事を見つける努力をしている。記録する事により、その人に合った生活リズムを、職員全体が把握していけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には日々の生活の中で、ご家族やその他関係者とは連絡を取り話し合うように努めている。 アセスメントやモニタリングが遅れがちで、プランへの反映が遅れてしまう。	計画作成者が中心となり、利用者の状況を把握し、家族の意向を確認した上で、定期的に利用者の現状に即したプランを作成している。プランは月ごとの様子や評価がわかりやすい独自の様式を用いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の中での変化や気づきを記録に留め、職員全体で情報を共有している。記録を基にモニタリングをし、プラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に応じ、必要なサービスを受けたり、医療との連携体制を常に提供できるよう配慮をしている。 自費での訪問マッサージ、歯科の口腔リハビリを受ける方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカや踊り等、ボランティアの協力を呼びかけ、理美容院等も地域の方の力を借りた取組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医、希望した所への受診をされ、情報のやり取りを通して関係を築いている。	利用前のかかりつけ医を継続している人、変更した人など様々であるが、ホームの情報提供書を家族に渡し、家族の同行で受診している。かかりつけ医とは、情報提供書のやり取りを通じて連携を取っている。協力医は緊急の際には24時間対応する等、密な連携関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の気づきを職場内の看護職に伝え、相談をし、適切な処置や受診を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療を受けられる様、職員が病院へ顔を見せたり、早期退院に向けて病院関係者から現状の情報を得て、受入体制を整える等努めている。 かかりつけ医とはスムーズな入退院に向け、日頃より相談しやすい関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には御家族・ご本人の思いを伺っているが、状況の変化に伴い思いも変化していきます。医療との連携を図りながら、状況に応じ、御本人・御家族の思いに寄り添い繰り返し話し合いをしている。	重度化した場合や終末期の際には、主治医の説明を受け、家族と話し合いをしている。看取りの希望があれば、不安や苦痛の緩和に向けたケアを行っている。普段から協力体制ができています併設のデイサービスも含めて3人の看護師が配置されており、またホームの管理者もすぐに駆けつけられるので、家族の安心につながっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・心配蘇生法は一部の職員は出来るが、全ての職員が対応できないと思う。誤嚥のリスクの高い利用者への食事支援・介助方法はミーティング等で話し合い考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で、地域の協力の呼掛けをしている。 消防署立会いの避難訓練では、経路の確認・消化器の使い方等を訓練している。火災・災害時に対応できるよう毎月訓練をしている。	夜間想定も取り入れた毎月の避難訓練や消防署との訓練を実施し、指導を受けている。近隣にある特別養護老人ホームやグループホームと防災協定を結んでおり、また認知症を理解した地域の方々との協力体制もできている。	2階は自立歩行ができる利用者の方、1階は様々な身体状態の方が利用されているが、有事の際、外部から救助に入っていたらいた支援者に例えば絵文字等を居室入口に掲示する等して、利用者の身体状況の情報が一目でわかるよう工夫に向けた取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や誇りを一人一人把握し、押し付けにならない様言葉掛けをしている。	「世間の常識・介護の非常識」に陥らないよう、自分たちのケアを常に確認し合い、利用者のこれまでの人生の中で大切にしてきたことを尊重し、誇りやプライドに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伺うような話掛けをし、希望を言って頂いたり、自己決定をして頂く様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添うようにしているが、迷っておられる時は提案し、納得されてから行って頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには注意しているが、おしゃれについてはご本人の希望に添っているか不明。ご家族が用意された物を着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、混ぜたり、つぶしたり、下ごしらえを中心に、職員と一緒に準備し、食事と一緒にしている。食器洗いや拭き、片付けもして頂いている。	利用者の好みや希望を聞いて、冷蔵庫の食材を使い、相談しながら献立を決めている。待つ姿勢で、利用者の主体性を尊重しつつ、できることを見極めながら、皮むき、根切り、盛り付けや片付け等調理作業と一緒にしている。また食事を共にし、感想を言い合う等、語り合いながら食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を確認し、栄養バランスを工夫している。一緒に食事をする事により、一人一人の状況を把握し、適した支援を出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は確認していない。朝晩虚空ケアをされるよう、声掛けや道具を準備する等支援している。義歯の管理は職員でしている。介助の必要な方は職員が毎食後行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や生活リズムにそって、ご本人の行きたいときにトイレに行ける等、自立できるような方向に向けるよう心掛けている。	利用者が行きたい時に行ける支援をしている。排泄チェック表やしぐさからパターンを把握し、さりげない言葉がけをしてトイレ誘導を行っている。また利用者がどんな時に自尊心が傷つくか等を把握し、状況に合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便が出来るよう、適度な運動と食材の工夫や乳製品の取り入れ等、適時適切に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間帯に入って頂いたり、ご本人のこれまでの習慣通りに入浴されるときは、見守り支援している。	本人の希望や状況を勘案して入浴の順番や時間を決めている。気持ち良く入浴していただけるよう、声のかけ方やタイミングなど工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後に居室で休息を取って頂いたり、日中体調の悪い時の休息、外出で疲れている時は早めに休んで頂く等体力や体調を把握し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態に変化があった時は、その時使用した薬についてや受診後の処方内容を連絡ノートに記入して職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力に合った仕事をお願いし、時には自主性も大切にして、仕事を終えた後に感謝の気持ちを伝えるようにしている。得意な事や趣味の時間が生活の中で持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物と一緒にいき、本人の物を購入したり、歩行困難な方は車いすを利用して散歩に行ったり、又、季節ごとに花見に行ったり、地域のお祭りに参加するなど出かけている。	近くのスーパーや商店に食材や趣味の材料、日用品などの買い物に出かけている。利用者の希望によりホームの周辺を運動を兼ねて散歩し、会話しながら季節の移り変わりや自然の風景等を楽しんでいる。また誕生日の家族との外出や、お花見等季節ごとの外出、地域の行事への参加等を通じて外出機会の拡充に努めている。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、趣味に必要な物を購入の時は職員と一緒に買物に行かれる。用途についてはご家族が確認できるようにしてある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が連絡を取り、その後にご本人に替わり話して頂いたり、年賀状の準備のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に利用者さんの作品や植物などを飾ったり、利用者さんに合わせての温度管理や掃除を行い、気持ちよく過ごせるようにしている。	2階建ての造りであり、雪見障子、畳、ウッドデッキ等が設置され、家庭的な雰囲気がある。通路には共同作品や季節の花が飾られ、くつろげるソファが設置されている。明るく清潔感があり、居心地良い雰囲気が感じ取れた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時間以外は、居間や各自の居室で趣味を行ったり、数人で会話や歌等を楽しんだり、思い思いに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に趣味の作品や植物、ご家族からの手紙や写真を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。	夜間でも戸感わないように、自宅での動線を考慮してベッドや家具を配置する等、過ごしやすいうちに工夫している。使い慣れた馴染みのものを持ち込み、植木鉢を揃え、サイドボードに湯のみを並べて居間づくりをする等、居室を自宅のようにして過ごしている利用者の様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの生活空間を出来るだけバリアフリーにし事業所内を安心して動けるようにしている。又、迷わないようには居室には名札、便所、洗面所等明記している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173200193		
法人名	有限会社 ラック・ライフ		
事業所名	グループホーム喜楽(きらく)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302-1		
自己評価作成日	平成28年10月8日	評価結果市町村受理日	平成29年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JievosyoCd=2173200193-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成28年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目にしやすい場所に掲げており、いつでも確認できるようにしている。また、ミーティング等で挙がる事例を基に理念について再確認をし、実践に繋げる様努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園児との交流やボランティアの方の訪問等を通して、地域との繋がりを継続できるようにしている。また、散歩等で挨拶を交わす機会がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	幼稚園や保育園等との交流やキラク・カフェ、ハーモニカボランティアの方々との交流が定期的に行われている。また、買物や散歩等の日常生活での活動も大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の参加や利用者及びその家族、またスタッフも参加する事で活発な意見交換ができています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所の行事に参加していただく事で、利用者との交流を通して日々の生活状況を伝え連携がとれるよう協力を仰いでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で拘束にならないケアを話合う事で、基本的考えを共有できるよう努めている。特に散歩等出来る限り本人の思いに寄り添い、見守りをしたり、一緒に歩くなどしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等でケアについて話し合い、虐待に繋がらないか、皆で考えている。環境を整えたり、言葉使いについては毎回話し合いのテーマになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる利用者がある場合には、制度等について勉強するよう努め、対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、対応や方針等も含めて丁寧な説明をするよう努めている。また、変更や改定時には文書等で説明をし意見や同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対して個別に対応したり、日頃から利用者やその家族の思いを聞くように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やミーティング等を通して、意見や提案が出来たり、また、管理者からの情報を得ることができている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニットを見て回り、現場の状況を把握しながら、時にはスタッフ一人一人に話を聞いて、勤務形態を話し合ったり、円滑に仕事ができるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務内容だけでなく、基本的ケアの考え方や、個々に合わせたケアや対応について伝えたり、実際に関わる事で感じてもらうように努めている。内部研修や勉強会の積極性に欠けている事が課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会や研修会への参加をする事で意見交換が出来るようにし、より良いケアを目指すように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方が抱えている不安や思いを聴き、その方の不安、困っている事を受け止めて、信頼関係をつくるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネからの情報や御家族の方にも話をしっかり聞いて、家族の思いを理解し、お互いの信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が「何を望んでいるのか」その思いに応えられる様、他のサービス関係者を交えて支援するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや考えを受容し、今できている事、やりたい思いを大事にし、関わり合いを持って対応するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と協力し合い、ご利用者さんの様子を連絡したり、行事がある時は、御家族の方にも来ていただいてお互いの信頼関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近隣の方の来訪があれば、一緒に過ごしていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	何かされる時など、一人だけではなく皆さんでもらえるように声掛けし、場の設定等を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の間に培われた関係の継続、地域住民として遊びに来てもらったり、会いに行ったり関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い、意向について関心を持ち把握しようと努め、本人の視点に立って話し合っていく取組みをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のライフスタイル、価値観、地域の中でどのようなサービスを受けてきたか、関わりがあったか、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムの把握、関係者の情報にとらわれず、本人の行動から感じ取り、全体像を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画について本人と話し合い、家族や関係者が気づきやアイデアを出し合い、それを反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人を身近で支える職員しか知りえない事実、ケアの気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族が安心して暮らし続けていくための、臨機応変かつ柔軟なサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加できるときは足を運ぶようにしており、来てもらうこともある。馴染みの病院や理美容院などは家族の協力を得て、出来る限り出かけて貰っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく馴染みのかかりつけ医に診て貰える様に御家族の協力も得て行えていると思います。 医師、家族、職員と情報の共有にも努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや相談、対応の仕方等を直ぐに相談でき、助言や処置、医師への伝達等を受けられる関係を築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に退院時は、病院側の情報を基に、ケアの仕方を病院側、ご家族とも相談して決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所と本人・家族とで話し合いは出来ている。利用者さんの状況に応じて、その都度職員とも話し合い、全員で協力して支援できている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や転倒、怪我などが起きた時は、落ち着いて状況を把握し、その後の支持をもらう様にしている。初期対応、応急手当の点では知識不足な事があると思うので、皆で方法を習得する事が今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震(昼夜)想定訓練は月一回行っている。消防署の協力、運営推進会議だったり、ボランティアの方が来所中でも訓練する事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアに対しての声掛け等、直接的に告げるのではなく、間接的に伝えたり、さりげなく誘導できるよう言葉掛けに気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「今どうしたいのか」等、本人ができる限り決定できるように声掛けをしたり、発する言葉の中から思いを汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の希望を日に何度もされる方に対して、できるかぎりスタッフが付き添って希望に添い、不調以外で居室で休まれる方に対しては、不活発にならない様声掛けを工夫して、活動できる時間を考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合った状態を心がけ、服や肌着、美容院の同行等、家族の方と連携をとりながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	さりげない会話から興味を引いたり、旬の食材、好み等々に気を配り、利用者さんと一緒に一連の流れを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事は職員が把握しており、食事量、水分量、状態等を都度考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアは必ず行っている。昼は、ご自分で磨かれる方の見守りや声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表等の確認により、個々の時間に注意している。微妙な行動変化を察知し、気持ちよくトイレで排泄できるよう楽しい言葉掛けをする等している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の場合、牛乳やヨーグルト、水分、食事等に気をつけている。また、薬については、日々の状態に応じて量を加減している。運動不足にならない様に声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に添った入浴を基本とし、入浴に対し不安になる方には気持ちが変わるような声掛けをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には寄り添い、安心できる様に話を聞いたり、穏やかな声掛け、暖かい飲み物を勧めるなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の名前を確認し、手渡しの方は服用の確認をする。薬により状態や症状の変化がある場合は、記録に残し報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴にそった喜びが持てるよう出来るだけの声掛けをする。個々の役割を持つことで張り合いを保てるよう、体調に合わせて家事等が出来るよう声掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調により難しいこともあるが、気分転換、ストレス発散、健康の為に散歩等に声掛けし一緒に外出できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所内でお金のやり取りは無いが、一定額を預かり金として預かっている。希望される方には職員が伺った上で、お金の所持や買物等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を家族に掛けたいとか、家に行きたい等の希望には家族の内情に配慮して電話を取り次いだりする。本人宛の贈り物は、直接渡すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームが生活の中心になっている為、できるだけ開放的にしている。他ユニットとの風通しも良く利用者、職員共に行き来がある。暖かい日はデッキで日光浴する事もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	読書や塗り絵をされる方には、専用の机・椅子を準備している。また、廊下やリビング内に長椅子を置いて自由な時間が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や贈り物等は部屋の見やすい場所におく等して、本人の安心に繋がるようにと心掛けている。自分で動けない方には、呼び鈴を準備し安心して生活できるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が分かりやすく作業しやすいように場のセッティングをしている。物の移動やテーブル、椅子等を動かそうとされる場合、危険がない限り見守り、危険が伴いそうな場合は、さりげなく別の行動へと移行できる様声掛けを行っている。		